

日印アクト・イースト・フォーラム第二回会合の開催

10月8日、平松大使と印外務省ゴカレ外務次官が共同議長を務める「日印アクト・イースト・フォーラム（Japan-India Act East Forum）」の第二回会合が開催されました。

本フォーラムは、インド北東部における日印間の協力を一層拡大し、日本と北東部の関係、ひいては日印関係を強化するため、北東部における様々な分野の協力について協議し、協力事業を促進することを目的としています。

日本側からは在インド日本大使館をはじめとしたデリーにある日本政府関係機関、インド側からは外務省他インド中央政府関係省庁及び北東部政府関係者が出席しました。

ゴカレ外務次官は、特に連結性を含む、北東部に対する支援は優先課題となっており、生産的な議論と協力の具体化に向けた期待を表明しました。

平松大使は、北東部における協力が、連結性から人的交流に至るまで幅広いものとなっていること、具体的な案件の形成が重要であることを強調しました。平松大使は、さら、本フォーラムにおいて、北東部の協力に向けて関係者が協力しあうコミュニティとしての意識が高まっていることを歓迎しました。

本会合では、参加者の間で活発な議論が行われ、インド政府関係省庁及び北東部の代表が見解を共有しました。その結果、別添のとおり、道路・橋梁連結性事業、トリプラ州及びメガラヤ州での森林管理事業、北東部に豊富に存在する竹を活用するためのイニシアティブの立上げ、人的交流の促進など、北東部に関する今後の日印間の協力の方向性が確認されました。



冒頭挨拶を行う平松大使（中央）



会合の様子